

ICT活用スキルと授業力の向上につながる教師の主体的な学びの支援 —目標設定と振り返りを重視した研修プランの開発を通して—

情報教育室 渡部浩二 加藤憲司 村上貴彦
石崎正人 山之内孝明

1 研究の目的

中央教育審議会答申では、ICT活用による個別最適な学び・協働的な学びや、教師の主体的・継続的な学びの重要性が示された。本室では「愛媛県ICT教育推進ガイドライン」に基づき、ICT活用スキル向上を目的とした研修を実施してきたが、知識や技能の習得が中心で教師自らが学び、学びを継続していく主体的な研修とは隔たりがあった。そこで、本研究では、教師の主体的な学びを支援する研修プランを開発することで、ICT活用スキルと授業力の向上を図るとともに、主体的に学ぶ意識を醸成し、新たな教師の学びの姿の実現を目指す。

2 研究の内容

(1) 教師のICT活用スキルと実態調査

本室の課題別研修及び出前講座に参加した56名を対象に事前アンケート調査を実施した。文部科学省「学習場面に応じたICT活用の分類例」の10項目中9項目で肯定的な回答の割合が70%を上回っていることから、授業におけるICT活用は一定程度進展していると考えられる。

(2) 教師の主体的な学びを支援する研修プランの構想

研修の構成要素を明確化するために研修デザインシートを作成した。研修目標、研修内容、研修過程・方法の3要素を整理し、参加者の主体的な学びを促進するための工夫を盛り込んだ。

研修プランでは、「導入」で個人目標を設定する時間を確保した。そして、知識・技能のインプットと実践を結び付ける「展開」の時間を設け、「振り返り」で、自己を見つめる場として、リフレクションの時間を取り入れた。

(3) 研修プランの実践

9講座で研修プランを実践した。「導入」でオリエンテーションを行い、研修観の転換や研修目標、研修内容を参加者に提示した。その後、個人目標を共同編集機能付きのエクセルやスプレッドシートに入力する時間を設け、目的意識を持って研修に臨めるようにした。

「展開」では、専門家による講話の実施や自己決定の機会を設定し、主体的な学びを促進した。さらに、協議支援ツール「えんたくん」を活用し、参加者同士が情報交換できる機会を設けた。これにより、自らの教育実践について振り返ったり、他者の考えに触れたりすることで、新たな気付きを得ることにつながった。

「振り返り」では、リフレクションの時間を確保し、自己を見つめる場を設定した。共同編集機能により、多様な気付きに触ることは、自己の在り方に関する深い省察につながった。

(4) 事後アンケート結果

研修参加者の事後アンケートでは、肯定的な回答の割合が、事前アンケートと比較して、10項目中9項目で増加した。また、「研修が授業力の向上につながった」の問い合わせに対して肯定的な回答の割合が100%に達した。実際に操作・体験する研修形式は、教師の活用意欲を高め、授業実践への移行を促進する重要な要因であると考えられる。

3 研究のまとめ

開発した研修プランは、ICT活用スキルと授業力の向上につながる教師の主体的な学びの支援において、一定の効果が見られた。まず、知識・情報のインプットや参加・体験を往還しながら、確かな知識やスキルを身に付けることが重要である。その上で、自分が何を学んだか、どのような気付きがあったか、自分と向き合う時間を十分に確保する必要がある。そして、それらをアウトプットして多様な考えに触れ、更に学びを深めていく。このようなプロセスが、教師の主体的な学びにつながっていくのではないかと考える。今後、研究成果を踏まえ、研修の更なる充実に努めたい。